	年	月	日	曜日	著者	現職・経歴	表題	サブタイトル・抜き出し	出典
1	2020	2	29	土	内田樹	仏文学者。前神戸女学院大学教授	コロナウイルスと社会的共通資本	社会的共通資本とは人間が集団として生きるためにそれなしでは生きてゆけないもののことである。海洋・森林・河川といった自然環境、上下水道・交通網・通信網・電力などの社会的インフラ、そして行政・司法・教育・医療などの制度資本がこれにあたる。これらの制度設計、管理運営は専門家が専門的知見に基づいて、理性的かつ非情緒的に行うべきのものであって、政治と市場はこれに関与してはならないとされる。・・政治と市場は複雑系だということである	内田樹の研究室
2	2020	3	2	月	内田樹	仏文学者。前神戸女学院大学教授	20世紀の倫理ニーチェ、オルテガ、カミュ		内田樹の研究室
3	2020	3	3	火	内田樹	仏文学者。前神戸女学院大学教授	打って一丸の危うさ	いま日本は分断されていますけど。それは隣の人間がやっていることをうるさく詮索して、査定して気に入らないと非国民とか反日とかレッテル張りをする馬鹿が湧いて出ているからです。日本時は一つにまとまるべきだといいたてながら、国民的分断を進めている。そのせいで日本はここまで国力を失った。	内田樹の研究室
4	2020	3	26	木	内田樹	仏文学者。前神戸女学院大学教授	民主主義を目指さない社会	統治機構が崩れ始めている。公人たちが私利や保身のために公共の福祉を配慮することを止めたせいで、日本は次第に「国としての体」をなさなくなりつつある。・・・誰かの怠慢や不注意の帰結ではない。過去30年ほどの間、日本国民一人一人の孜々たる努力の成果である・・・	内田樹の研究室
5	2020	4	8	水	大澤真幸	社会学者 京都大学大学院教授を経てフリー		国家超えた連帯の好機 地球規模の社会封じ込め通用せず心も荒廃する恐れ 平等に危機の今政府上回る期間力結集し設立を	朝日新聞
6	2020	4	10	金	吉岡忍	作家		パニック背景に政治不信　指示待ちやめ社会の力示せ	東京新聞夕刊

	年	月	日	曜日	著者	現職・経歴	表題	サブタイトル・抜き出し	出典
7	2020	4	22	水	内田樹	仏文学者。前神戸女学院大学教授	コロナ後の世界	独裁か民主主義かという歴史的分岐点。・・・・日本はなぜパンデミック対応に失敗したか・・・・為政者が無能だったということにつきます。…安倍首相は官僚の書いた作文を読み上げることしかできない。自分の言葉で現状を説明し、方針を語り、国民に協力を求めることができない。・・メルケル、アンドリュー・クオモ、ジョンソン・・・それには比すべくもない。・・・・階層の二極化が信仰すればさらに後進国化すると思います。ネポティズムがはびこり、わずかな国富を少数の支配者層が排他的に独占する・・・	内田樹の研究室
8	2020	4	24	金	西山雄二	東京都立大学人文社会学部教授	ウイルス禍と文化	欧州の哲学者が次々発言　生き残りへ思考を	東京新聞夕刊
9	2020	4	24	金			こちら特報部	非常時のリーダーシップとは　安倍首相支持率低下　理念なき政策　　カギは国民との対話	東京新聞
10	2020	4	26	日	浜矩子	同志社大学教授	時代を読む	二人の政治家の違い　メルケル　安倍晋三	東京新聞
11	2020	4	26	日			社説	寂しさをためておく　人と交わって人間　家庭サイズの世間その日が来る時まで	東京新聞
12	2020	4	26	日	筒井清忠	帝京大学文学部長	新聞を読んで	過剰同調のこわさ	東京新聞
13	2020	4	27	月	湯浅　学	音楽評論家	じゅんかん記	距離のある生活　　変わる買い物の風景	東京新聞夕刊
14	2020	4	28	火	中島岳志	東京工業大学教授	論壇時評	権力行使待望の危うさ　自由制約の状態化に注意	東京新聞夕刊
15	2020	4	28	火				密集防げNY市が歩道拡張へ　世界の感染300万人突破	東京新聞
16	2020	4	28	火				3密が集落を滅ぼした　福井大野スペイン風邪の日　100年前からのメッセージ	東京新聞
17	2020	4	28	火	坂口孝則	調達・勾配コンサルタント		新型コロナの予言に満ちた小説『ペスト』が示す感染症の終わり	幻冬舎plus
18	2020	4	28	火			こちら特報部	コロナ禍の憲法守るべき人権とは　財産権協業損失は補償できる一律10万円では足りず　個人の尊重検査も防護服も不十分　生命権保証を　表現の自由緊急事態で改憲の動きチェックが必要　生存権受診保障　医療機関の経営支援を　労働三権雇用維持を派遣切りを許すな	東京新聞

	年	月	日	曜日	著者	現職・経歴	表題	サブタイトル・抜き出し	出典
19	2020	4	28	火			社説	コロナ禍に考える　ガラパゴス化の岐路か　グローバル化の加速　見えない敵（金融資本）による浸食　次の選択が未来を決める	東京新聞
20	2020	4	28	火	内田樹	仏文学者。前神戸女学院大学教授	現状分析と展望	「選択と集中」戦略はパンデミックのような社会的危機に対しては全く役に立たない。・・・新自由主義者には「危機管理」ができない日本人には「最悪の事態」に備える発想そのものが希薄　日本の統治機構は制度としては見事に設計されていると思います。ですから問題は制度ではなく、それを動かしている人間にあります。システムを管理運営している人間の質が劣化している。	内田樹の研究室
21	2020	5	1	金	古川秀昭	KBギャラリーおおがき館長・前岐阜県美術館館長	ウイルス禍と文化	美術館博物館の使命　「命」や「生」に宿る「美」と会う機会を	東京新聞夕刊
22	2020	5	1	金	飯間浩明		大波小波	コロナ禍での不条理　カミュの描く世界に現在を重ね合わせる	東京新聞夕刊
23	2020	5	2	土	中村晋	高校教諭　俳人		フクシマの現実を読む　いつの世も弱者にしわ寄せがくる	東京新聞夕刊
24	2020	5	2	土	飯間浩明	国語辞典編纂者	この言葉はクセモノ	ご褒美　盛んになった自己評価　　1996アトランタ五輪有森銅メダル	東京新聞夕刊
25	2020	5	9	土	白井聡	思想史家・政治学者	書く人	『武器としての資本論』 コロナ以後を語るために	東京新聞書評
26	2020	5	9	土	鵜飼哲	一橋大学特任教授仏文学・思想		『まつろわぬ者たちの祭り』日本型祝賀資本主義批判	東京新聞書評
27	2020	5	10	日			こちら特報部	台風19号水害　川越の障碍者施設窮地　自助頼み「日本の縮図」	東京新聞
28	2020	5	10	日			週刊誌を読む	新型コロナの専門家　岡田春恵白鴎大教授「コロナの女王」	東京新聞
29	2020	5	10	日			社説	「中国模式」の危うさ　一党独裁化で経済成長　衝撃与えた習近平の演説	東京新聞

	年	月	日	曜日	著者	現職・経歴	表題	サブタイトル・抜き出し	出典
30	2020	5	10	日	朴喆熙	ソウル大学国際大学院教授	時代を読む	反グローバル化の誘惑	
31	2020	5	10	日	武田砂鉄	ライター	新聞を読んで	とにかく冷たい　自粛警察　相互監視社会　「クールジャパン」は冷たい日本だ。	
32	2020	5	10	日	内田樹	仏文学者。前神戸女学院大学教授	コロナ禍についてのアンケート	未知のウイルスにどう対処するかという手順はすでに既知です。危機対応としては・・長期的に見た場合、強権に唯々諾々と従うだけで自分でものを考えない、判断もしないというような幼児的な国民を作り出す国よりも、国民一人一人に、自己判断で適切にふるまうことができるような市民的成熟を求める国の方が「復元力＝レジリエンス」においてまさっている。・・・日本には海外から人が来ないし、日本からは出ていく行くこともできない事実上の鎖国状態に取り残されるリスクがあります。	内田樹の研究室
33	2020	5	13	水			大波小波	コロナ時代の文学	東京新聞
34	2020	5	13	水	誉田亜紀子	文筆家	古代のぞき見	皆で越えていく	東京新聞
35	2020	5	13	水	大住良之	サッカージャーナリスト	サッカーの話をしよう	レユニオン（再結合）という名の火山島・・・	東京新聞
36	2020	5	14	木	堀千晶	早稲田大学非常勤講師　仏文学	ウイルス禍と文化	カミュ『ペスト』が問いかけるもの　不条理作家未来への手紙	東京新聞夕刊
37	2020	5	17	日			社説	自分の足で立ってみる　丈夫な体と賢い体　自ら考える機会に　他人の靴を履いてみる	東京新聞
38	2020	5	17	日	上西充子	法政大学教授	新聞を読んで	行動変容の着地点は	東京新聞
39	2020	5	17	日	貴戸理恵	関西学院大学准教授	時代を読む	オンライン居場所　オンライン〇〇は可能にならない	東京新聞
40	2020	5	19	火	飯田亮介	イタリア在住　翻訳家		『コロナ時代の僕ら』イタリア人作家　パオロジョルダーノエッセイ集終息後の世界考えるよすがに。　「すべてが終わったとき、本当に僕たちは以前と全く同じ世界を再現したいのだろうか」	東京新聞

	年	月	日	曜日	著者	現職・経歴	表題	サブタイトル・抜き出し	出典
41	2020	5	21	木			AFPニュース	ロボット犬　公園でタイ人距離パトロール	
42	2020	5	21	木			早川文庫	華氏451度　訳者解説	
43	2020	5	24	日	筒井清忠	帝京大学文学部長	新聞を読んで	つくり出された恐怖	東京新聞
44	2020	5	24	日	内山　節	哲学者	時代を読む	新しい社会の創造　だが私たちの精神は、閉じこもっていてはならないのである。これまでの社会のあり方を守ろうとして閉じこもるのではなく、新しい社会を創造するために前に出る。いま求められているのは、このような精神である。	東京新聞
45	2020	5	24	日			社説	国が配った小さな仮面　市場経済の持つ欠陥　先人たちの努力と知恵	東京新聞
46	2020	5	26	火	ブレディみかこ	英国在住保育士	社会時評	英首相とクリスマスキャロル　コロナで緊縮政策から急転換　偽善的との声も	東京新聞
47	2020	5	29	水	吉川トリコ	作家	ウイルス禍と文化	私たちは間違える　戦時中の国防モードを想起「自分こそ正しい」は危険	東京新聞
48	2020	5	29	水				アマビエだけじゃない　アマビコ　疫病退散願い	東京新聞夕刊
49	2020	6	4	木			文化欄	多和田洋子　連作2作目出版　文壇の席の希望求めて　コロナ禍で独に変化の兆し	東京新聞夕刊
50	2020	6	5	金	土井香苗	ヒューマン・ライツ・ウォッチ日本代表	紙つぶて	二大超大国の人権危機　米国と中国	東京新聞夕刊
51	2020	6	11	木				漫画で知る戦争記録文学　『戦争は女の顔をしていない』異例ヒット	
52	2020	6	13	土	武田　好	静岡文化芸術大学教授	紙つぶて	遠隔授業　　40年前のLL教室の授業風景　OHPを使ったころと同じではないか	東京新聞夕刊
53	2020	6	13	土	土井礼一郎	歌人	短歌の小窓	手を洗いまた手を洗う手を洗う我の手すっかり油の抜けし　トイレットペーパーのないコンビニに今日も新作のスイーツ並ぶ	東京新聞夕刊

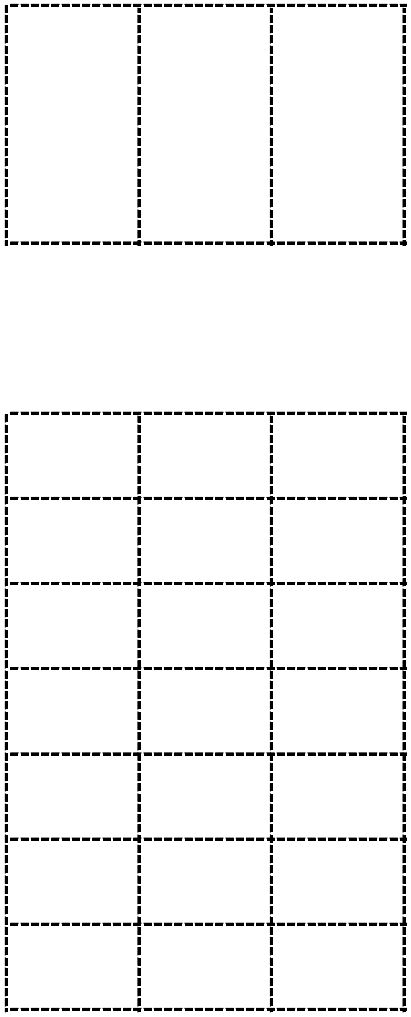
	年	月	日	曜日	著者	現職・経歴	表題	サブタイトル・抜き出し	出典
54	2020	6	13	日	柳田邦夫	ノンフィクション作家	短歌の小窓	『人生の1冊の絵本』を刊行 「いのち」の視点　通底	東京新聞夕刊
55	2020	6	22	月	佐野史郎	俳優	じゅんかん記	コロナ禍での撮影　近未来映画にいるよう	東京新聞夕刊
56	2020	6	23	火	朱戸アオ	漫画家	ウイルス禍と文化	感染症を扱った漫画 『リウを待ちながら』講談社全3巻　再注目 社会の混乱現実とリンク。 リウ「ペストと戦う唯一の方法は誠実さということです」	東京新聞夕刊
57	2020	6	24	水	高良朱香音	首里高校3年		平和の詩『あなたがあの時』全文　沖縄戦75年慰霊の日　戦争体験の記憶つないでいく	東京新聞
58	2020	6	24	水			ふくしま10年	牛に罪があるのか	東京新聞
59	2020	6	24	水	ブレディみかこ	英国在住保育士	社会時評	コロナ後の保育・教育 「愛は無償」と値切るな	東京新聞
60	2020	6	25	木	中島岳志	東京工業大学教授	論壇時評	ガンディーの「隣人の原理」 『真の独立の道』 鉄道で邪悪が広がります。　ポストコロナ　地産地消で　小規模分散型の経済　森永卓郎「コロナ禍の今こそガンディーの経済学が求められるわけ」マネーポストweb5/19	東京新聞夕刊
61	2020	6	22	月	湯浅学	音楽評論家	じゅんかん記	リモート収録　同じ空間にいない難しさ リモートは意味を確認してから話しがちだが、同一空間での会話は音や空気の動きを察して発言できる分、意味の確認にとられる時間が極少なくて済む。	東京新聞
62	2020	6	29	月	伊藤聡	茨城大教授	生きる	神信仰と仏　上　神仏習合の歴史　本来の姿近代が否定	東京新聞夕刊
63	2020	7	6	月	伊藤聡	茨城大教授	生きる	神信仰と仏　下　外来文物への対抗　日本固有求めて成立	東京新聞夕刊
64	2020	6	28	日	内山　節	哲学者	時代を読む	命が守られる生命観　大事なことは直接間接に結ばれている社会の維持であり、感染防止も経済も核心的な目的ではないのである。・・経済はそのための道具に過ぎない・・・なぜそれが重要かと言えば人間もまたこのつながりの中で、生命を絶えず生産しているからである	東京新聞
65	2020	6	28	日			社説	コロナ禍のクセジュ	東京新聞
66	2020	7	3	日	鷲田清一	哲学者		コロナが変えた価値観　社会設計し直すとき	東京新聞

	年	月	日	曜日	著者	現職・経歴	表題	サブタイトル・抜き出し	出典
67	2020	7	5	日	浜矩子	同志社大学教授	時代を読む	日本モデル一新を	東京新聞
68	2020	7	6	月	保坂和志	作家	じゅんかん記	コロナの日常　平時の備えあれば	東京新聞
69	2020	7	6	月	大澤真幸	社会学者 京都大学大学院教授を経てフリー	考える広場	新型コロナと世界　今は「終わりなき終わり」	朝日新聞
70	2020	7	8	水	稲垣えみこ	元新聞記者	ウイルス禍と文化	我々は酒場を取り戻せるか	朝日新聞
71	2020	7	26	日	貴戸理恵	関西学院大学准教授	時代を読む	問題を起こす力	東京新聞
72	2020	7	26	日	猪熊弘子	ジャーナリスト	新聞を読んで	コロナ禍が映す子育て	東京新聞
73	2020	7	26	日			社説	ダンスをうまく踊る　go toトラブル　緊張と解緊の連続	東京新聞
74	2020	7	29	水	中島岳志	東京工業大学教授	論壇時評	命の選別論の危うさ　生きる権利踏みにじる	東京新聞夕刊
75	2020	7	29	水			こちら特報部	なぜ今はびこる優性思想　生産性追求　命の選別に	東京新聞
76	2020	7	30	木			健やかゼミ	コロナ禍の分娩施設　通常通りわずか1％	東京新聞
77	2020	7	30	木			埼玉版	水田ほっつけ守り20年　宮代環境NPO	東京新聞
78	2020	7	31	金			1面記事	首相に問わねばならないこと　自らの言葉で説明を	東京新聞
79	2020	8	2	日	内山　節	哲学者	時代を読む	ウイルスと共生できるか	東京新聞

	年	月	日	曜日	著者	現職・経歴	表題	サブタイトル・抜き出し	出典
80	2020	8	2	日	藤原辰史	京都大学准教授		パンデミックを生きる指針　歴史研究のアプローチ	岩波新書HP B面の岩波新書
81	2020	4	10		藤原辰史	京都大学准教授		パンデミックを生きる指針　ネットで話題沸騰　気鋭の研究者藤原辰史　　負の声と憎悪をめぐって	京都新聞
82	2020	4	26	日	藤原辰史	京都大学准教授	寄稿	人文知を軽んじた失政　歴史に学ばず、現場を知らず、統率力なき言葉　　ワクチンと薬だけではパンデミックを耐えられない。言葉がなければ、激流の中で自分を保てない。言葉と思考が勁ければ、視界が定まり、周囲が見渡せる。どこが安全か、どこで人が助けを求めているか。流れとは歴史である。流れを読めば救命ボートも出せる。歴史から目をそらし、希望的観測に曇らされた言葉は、激流の渦にあっという間に消えてゆく。　　ルイとその取り巻きが「役に立たない」と軽視し、「経済成長に貢献せよ」と圧力をかけてきた人文学の言葉や想像力が、人びとの思考の糧になっていることを最近強く感じる。・・・ **歴史の知はいま、長期戦に備えよ、と私たちに伝えている**・・・ ・・・長期戦は、多くの政治家や経済人が今なお勘違いしているように、感染拡大がおさまった時点で終わりではない。パンデミックでいっそう生命の危機にさらされている社会的弱者は、災厄の終息後も生活の闘いが続く。誰かが宣言すれば何かが終わる、というイベント中心的歴史教育は、二つの大戦後の飢餓にせよ、ベトナム戦争後の枯葉剤の後遺症にせよ、戦後こそが庶民の戦場であったという事実をすっかり忘れさせた。第1次世界大戦は、戦後の飢餓と暴力、そして疫病による死者の方が戦争中よりも多かったのだ。・・・・・作家の方方（ファンファン）は、「一つの国が文明国家であるかどうかの基準は（中略）ただ一つしかない。それは弱者に接する態度である」と述べた・・・・・**在宅勤務が可能な仕事は、「弱者」の低賃金労働に支えられることによってしか成立しないという厳粛な事実だ**。今の政治が医療現場や生活現場にピントを合わせられないのは、世の仕組みを見据える眼差しが欠如しているからである。・・・・・・**危機の時代に誰が誰を犠牲にするか知ったいま、私たちはもう、コロナ前の旧制度（アンシャン・レジーム）には戻れない**	朝日新聞

	年	月	日	曜日	著者	現職・経歴	表題	サブタイトル・抜き出し	出典
83	2020	5	21		白瀬由美香	一橋大学大学院社会学研究科教授		生活基盤としての医療　イギリスの人々のNHSへの思い	岩波新書HP B面の岩波新書
84	2017	9	20		藤原辰史	京都大学准教授		『トラクターの世界史　人類の「歴史を変えた「鉄の馬」たち　』中公新書書評　2017/9/20	
85	2018	11	20		藤原辰史	京都大学准教授		『給食の歴史』岩波新書2018/11/20 書評	
86	2019	6	25		藤原辰史	京都大学准教授		『分解の哲学』 青土社　2019/6/25書評　パンデミックから紡ぐ思考	
87	2020	5	26		根本美佐子	明治大学文学部教授		近さと遠さと新型コロナウイルス	岩波新書HP B面の岩波新書
88	2020	8	5	水	山本敦久	成城大学教授		1年延期の東京五輪　政治判断で中止を **「経済」と「いのち」。コロナ禍の日本ではこの二つが天秤に乗せられている**。・・・**五輪は世界を一つにするどころか、社会を分断する政治装置だ**。従って「コロナだから」という理由で五輪を足止めにするべきではない。まっとうな政治判断によって、中止もしくは返上すべきなのだ。	東京新聞夕刊
89	2014	7	24	金	内山　節	哲学者		経済成長についての7つの質問	エダヒロの百人に聞く
90	2020	7	26	日	内山　節	哲学者		自粛は生命活動の縮小	新型コロナニュース
91	2020	7	19	日	寺島実郎	日本総合研究所会長		医療・防災産業の創生を　コロナと経済社会　変革への視座	新型コロナニュース
92	2020	7	17	金	隈研吾	建築家		都市を自然に戻す建築に　コロナと経済社会　変革への視座	新型コロナニュース
93	2020	7	24	金	山崎　亮	コミュニティデザイナー		地域の思考を変える機会	新型コロナニュース
94	2020	6	19	金	隈研吾	建築家		現代建築は「閉じた箱」コロナで脆さが浮き彫りに…隈 研吾が思う、これからの都市のあり方	『INNOVATION WORLD ERA』J-WAVE（81.3FM）

	年	月	日	曜日	著者	現職・経歴	表題	サブタイトル・抜き出し	出典
95	2020	6	16	火	隈研吾	建築家		建築家・隈研吾さんが語る “アフター・コロナ”の建築	NHKおはよう日本　今朝のクローズアップ
96	2020	4	23	木	隈研吾	建築家		リレーメッセージ「コロナに思う」。 今までペストなどさまざまな疫病によって、人間は都市のつくり方を大きく変えてきました。今回のコロナウイルスはわれわれに「箱からの解放」「室内からの解放」を求めているような気がします。	テレビ東京ビジネスオンデマンド
97	2020	7	20	月	隈研吾	建築家		『コロナで東京という都市は変わる！』	デイリーBOOKウォッチ
98	2020	4	8	水	藤原辰史 出口康夫	哲学者。京都大学教授。認識論・数理哲学・科学哲学を専門とする。		対談シリーズ「立ち止まって、考える」第1弾前編・藤原辰史×出口康夫　**「立ち止まって、考える―パンデミック状況下での人文社会科学からの発信」** 京都大学は、2017年に文部科学省より指定国立大学法人の指定を受け、日本の学術界における人文・社会科学分野の牽引役を担うことになりました。ミッションとして掲げたのは、「人文・社会科学の未来形発信」。・・・・・・私たち人社未来形発信ユニットは、本学の「人文・社会科学の未来形」を広く社会に、そして世界に発信するための組織として、2018年10月に発足しました。日本に閉じこもらず、多言語で世界に向かって発言する。あらゆるメディアを通じて、知の蓄積を社会へと開く。学際研究・産官学連携を推し進め、課題の設定と解決に積極的に貢献する。本ユニットは、新しい人文・社会科学の姿を、さまざまな形でお伝えしてまいります。	人社未来形発信ユニット
99	2020	8	6	木			社会面記事	総務省発表２０２０年１月１日現在の住民基本台帳に基づく人口動態調査による国内人口は**１億２４２７万１３１８人**。**埼玉・千葉で人口減**　過去最大４４府県で５０万人５４４６人（－０．４％）の減少。**２０１９年の出生数、８６万６９０８人で初めて９０万人を割る。**	東京新聞
100	2020	8	8				社会面記事	自治体に６指標　病床切迫度やPCR検査陽性率などコロナ６指標 感染対策自治体任せ　政府、再宣言避け対応後手。	東京新聞

	年	月	日	曜日	著者	現職・経歴	表題	サブタイトル・抜き出し	出典
101	2020	8	7	金			経済面記事	任天堂　６．４倍増益　巣ごもり需要　スイッチ・あつ森のヒット	東京新聞
102	2020	8	9	日	浜矩子	同志社大学教授	時代を読む	飛び交う変な言葉群　ソーシャルディスタンス・リモート・ゾンビ企業・ウィズコロナ	東京新聞
103	2020	8	10	月				新型コロナウイルスに関するウェブサイト集（世界・日本） https://rnavi.ndl.go.jp/research_guide/entry/post-1150.php 更新日：2020年8月 6日	リサーチナビ国立国会図書館
104	2020	8	10	月				新型コロナウイルス感染症について調べる 千葉商科大学付属図書館 http://www.lib.cuc.ac.jp/search/images/covid19.pdf	
105	2020	8	14	金	大塚ひかり	古典エッセイスト		古典は不要不急か	東京新聞
106	2020	8	11	火	伊藤亜紗・東浩紀	東京工業大学リベラルアーツ研究教育院准教授 ・批評家、哲学者、作家・「ゲンロンカフェ」主催	コロナ禍を考える上	科学への過信 社会的課題一つの分野で解決不能・ 予測できない不安どう制御するか。	東京新聞
107	2020	8	12	水	伊藤亜紗・東浩紀	東京工業大学リベラルアーツ研究教育院准教授 ・批評家、哲学者、作家・「ゲンロンカフェ」主催	コロナ禍を考える中	「つながり」が悪に 「人と一緒、不快」・・定着したら爪痕 政治も雑談がないと成立しない	東京新聞
108	2020	8	13	木	伊藤亜紗・東浩紀	東京工業大学リベラルアーツ研究教育院准教授 ・批評家、哲学者、作家・「ゲンロンカフェ」主催	コロナ禍を考える下	オンライン万能主義 人が存在する尊さがない。 組織も学問も持続性欠く	東京新聞

	年	月	日	曜日	著者	現職・経歴	表題	サブタイトル・抜き出し	出典
109	2020	8	15	土	井出英策	慶応大学経済学部教授	あの人に迫る	消費税の増税で皆を「受益者」に　運で人生が左右される社会を変えたい。　**これまでの日本社会を自己責任社会と定義　弱者を助ける社会から弱者を生まない社会への転換を訴える。**　民進党ブレーン。前原誠司民進党代表が掲げたオール・フォー・オールの生みの親。	東京新聞
110	2020	8	17	月	柴崎友香	作家	じゅんかん記	あちらでもこちらでも	東京新聞
111	2020	8	17	月	飯間浩明	国語辞典編纂者	この言葉はクセモノ	**ルッキズム**　容姿差別　多様性で解消を	東京新聞
112	2020	8	21	金			社会面記事	**法隆寺よりも古い?　最古級木造建築か**　滋賀西明寺本堂　柱に7世紀中ごろの絵を赤外線撮影で発見。広島大大学院の安嶋紀昭教授（日本、東洋絵画史）が発表	東京新聞
113	2020	8	24	月	佐野史郎	俳優	じゅんかん記	若松孝二の怒り　今、黙さずに語れるか　権力を悪用し、そこにおもねる者は許さない。若松監督は、そうした怒りを生涯持ち続けた。	東京新聞
114	2020